

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 前月比

・EUで上方修正も、豪州等で下方修正され、前月から下方修正されたが、史上最高の見込み。

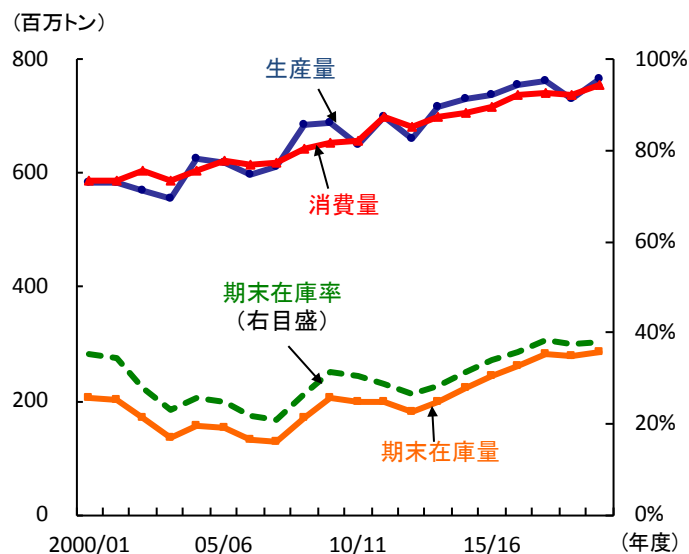
消費量 前年度比 前月比

・米国等で下方修正され、前月から下方修正されたが、史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

・EU等で上方修正も、豪州等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」（2019.10.10）をもとに農林水産省にて作成

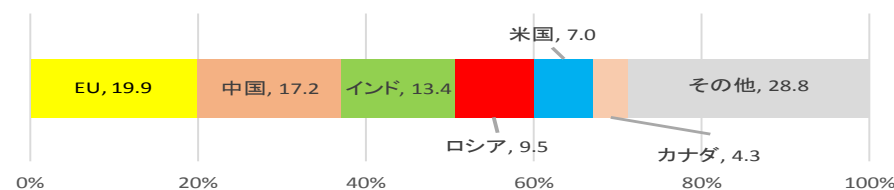
◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

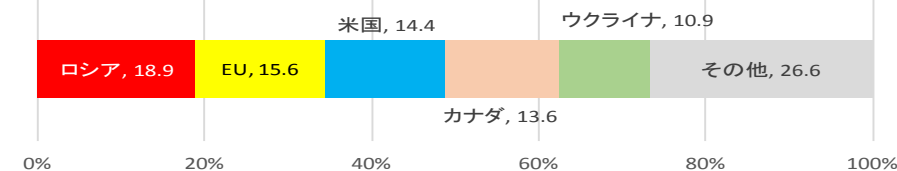
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	762.3	730.5	765.2	▲ 0.3	4.8
消費量	741.8	736.4	755.1	▲ 1.2	2.5
うち飼料用	146.5	139.7	148.5	▲ 0.6	6.3
輸出量	181.9	173.2	179.7	▲ 1.2	3.8
輸入量	180.0	169.3	175.7	▲ 1.1	3.8
期末在庫量	283.6	277.7	287.8	1.3	3.6
期末在庫率	38.2%	37.7%	38.1%	0.2	0.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 October 2019)

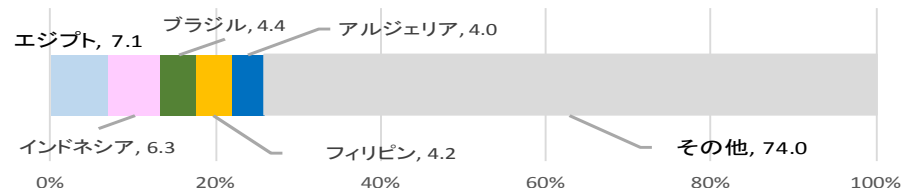
○ 2019/20 年度の世界の小麦の生産量(765.2 百万トン) (単位：%)



○ 2019/20 年度の世界の小麦の輸出量(179.7 百万トン)



○ 2019/20 年度の世界の小麦の輸入量(175.7 百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)「Crop Progress」(2019.10.15)によれば、9月の降雨・降雪で春小麦の収穫が遅れ、2019/20年度の収穫進捗率は、10月13日時点で94%とようやく終盤を迎えた。未収穫の小麦は、既に数週間も収穫が遅れたため、品質劣化の他、倒伏等の可能性があり収穫されるかは不明。なお、前年度同期及び過去5年平均では収穫は終了している。

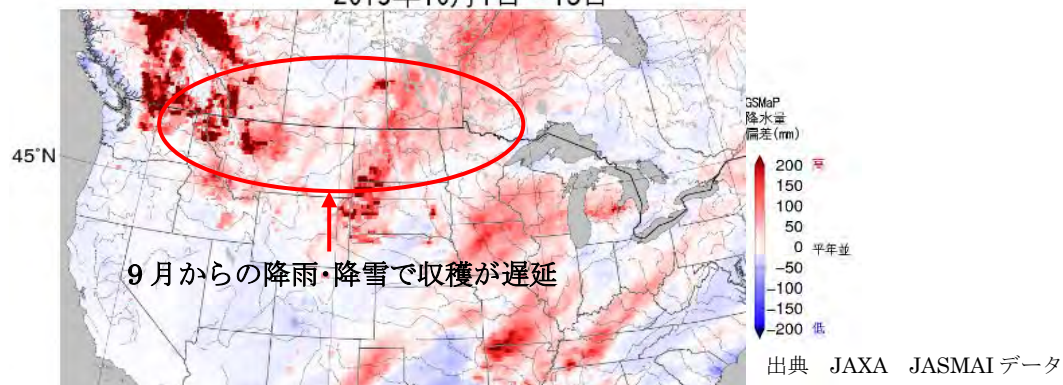
同年度の生産量(冬及び春小麦)は、前月予測から収穫面積の引き下げにより0.5百万トン下方修正され、53.4百万トンとなる見込み。内訳は、冬小麦が下方修正、春小麦が上方修正され、デュラム小麦は前月からの変更はなく、それぞれ35.5百万トン(対前年度比10.1%増)、16.4百万トン(同3.7%減)、1.6百万トン(同26.0%減)の見込み。

また、2020/21年度の冬小麦は、発芽段階に入っているが、発芽進捗率は41%と前年度同期(42%)及び5年平均(40%)とほぼ同水準。主要産地のオクラホマ州では前年度より進展、一方、太平洋岸のワシントン州では前年度並も平年より遅れている。

【貿易情報・その他】輸出量は、ドル高や主要輸出国の十分な供給力により、前月予測から0.7百万トン下方修正され、25.9百万トンの見込み。品種別には、ハードレッドウインター(HRW)及び、ハードレッドスプリング(HRS)で下方修正された。

図 北米の降水量 米国北部からカナダ西部にかけて平年より多い。

2019年10月1日～15日



小麦—米国

(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	47.4	51.3	53.4	▲ 0.5	4.1
消費量	29.3	30.0	31.8	▲ 0.8	5.9
うち飼料用	1.3	2.4	3.8	▲ 0.8	56.1
輸出量	24.7	25.5	25.9	▲ 0.7	1.5
輸入量	4.3	3.7	3.3	▲ 0.4	▲ 10.9
期末在庫量	29.9	29.4	28.4	0.8	▲ 3.4
期末在庫率	55.5%	53.0%	49.3%	2.6	▲ 3.7

(参考)
 収穫面積(百万ha) 15.20 16.03 15.40 ▲ 0.14 ▲ 3.9
 単収(t/ha) 3.12 3.20 3.47 - 8.4
 資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「Grain: World Markets and Trade」、
 「World Agricultural Production」(10 October 2019)

図 米国产小麦の品種別輸出価格の推移



< カナダ >

【生育・生産状況】主要産地の平原三州では、10月に入り一部で乾燥型の天候となったが、9月下旬の断続的な大雨や積雪の寒冷湿潤型の天候により農作業が滞り、収穫が遅れた。

各州政府によれば、春小麦の収穫進捗率はサスカチュワン州で66%(10.14現在)、マニトバ州で95%(10.15現在)、アルバータ州で62.6%(10.18現在)となっており、未収穫小麦の品質劣化が懸念されている(P2「北米の降水量」を参照)。

USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測から降雪等の影響で0.3百万トン下方修正され33.0百万トンの見込み。

一方、カナダ農務農産食品省(AAFC)の9月報告によれば、生産量は、前月予測から変更はなく32.5百万トン。内訳は、普通小麦が27.5百万トン、デュラム小麦が5.0百万トン。なお、AAFCの予測では9月以降の寒冷湿潤型の天候の影響は反映されていない。

【貿易情報・その他】AAACによれば、輸出量は、普通小麦が他の輸出国の生産量の増加から競争力が弱まり前年度より4%減少の19.0百万トン。デュラム小麦は世界的な減産により需要が高まり、前年度より4%増加の4.7百万トン。全体で23.7百万トンの見込み。

小麦－カナダ

(春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	30.4	32.2	33.0 (32.5)	▲ 0.3	2.5
消費量	9.3	8.8	9.5 (8.8)	▲ 0.1	7.5
うち飼料用	4.4	3.9	4.5 (4.3)	▲ 0.1	14.2
輸 出 量	22.0	24.4	24.5 (23.7)	-	0.4
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	-	▲ 6.2
期末在庫量	6.5	5.9	5.4 (6.0)	▲ 0.5	▲ 9.3
期末在庫率	20.7%	17.8%	15.8% (18.4%)	▲ 1.3	▲ 2.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	8.98	9.88	9.70 (9.78)	-	▲ 1.8
単収(t/ha)	3.38	3.26	3.40 (3.32)	▲ 0.03	4.3

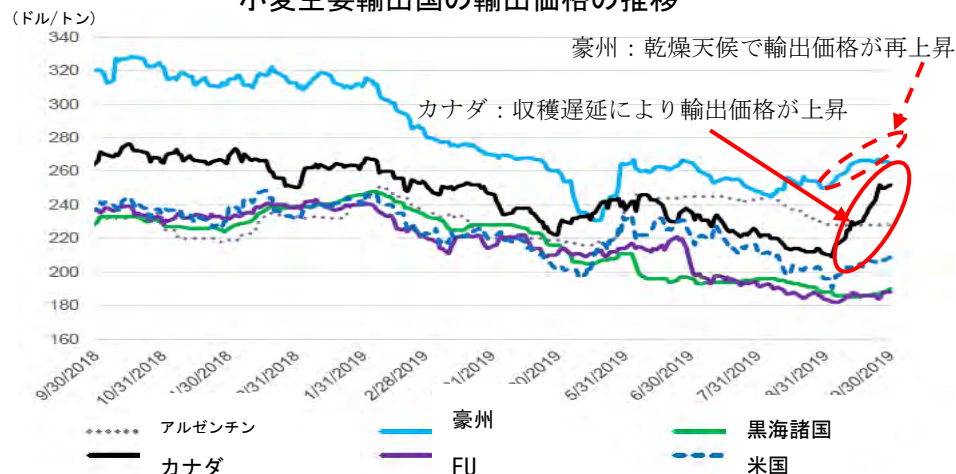
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 October 2019)、
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(18 October 2019)

雪に覆われた小麦圃場(アルバータ州 9月30日)

9月下旬から寒冷湿潤型の天候となり収穫が遅れた。



小麦主要輸出国の輸出価格の推移



資料: USDA「Grain: World Markets and Trade」(2019.10.10)

< 中国 >

【生育・生産状況】中国中央気象台によれば、2019/20年度の小麦（冬及び春小麦）の収穫は終了した。中国糧油情報センターによれば、生産量予測は、前月から変更はなく、冬小麦 127.0 百万トン、春小麦 7.0 百万トンの 134.0 百万トンの見込み。

2020/21 年度の冬小麦は、新疆地区、陝西省、山西省、河北省で播種期から発芽期を迎えている。陝西省、山西省、河南省では、9月に平年を上回る降雨で土壌水分が増加し、冬小麦の播種にとって好条件となった。中国農業農村部によれば、冬小麦の作付目標面積は 22.0 百万ヘクタールである

【貿易情報・その他】国家食糧・物資備蓄局によれば、小麦の政府買付は、9月30日時点で前年度同期より 20.6 百万トン増加の 70.8 百万トンで終了した。買付数量の増加が多い省は、河南省、安徽省等で、それぞれ前年同期より 8.2 百万トン（買付数量：20.3 百万トン）5.4 百万トン（同 10.7 百万トン）増加した。

< EU >

【生育・生産状況】EU 委員会によれば、9月末時点で 2019/20 年度の小麦の収穫はほぼ全域で終了し、生産量予測は、ドイツ等で下方修正されたものの、フランス、ルーマニアで上方修正されたことから、前月より 2.2 百万トン上方修正され 152.8 百万トンの見込み。

USDA によれば、厳しい乾燥に見舞われていたフランス中央部からドイツ穀倉地帯で、9月下旬から降雨に恵まれ土壌水分が改善し、2020/21 年度の冬小麦の初期生育として、ようやく適した状況となった。一方、スペインでも 10 月に入り乾燥型の天候となり冬小麦の作付けが進展。生産量予測は前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 152.0 百万トンの見込み。

なお、フランス農業省によれば、2020/21 年度の同国の冬小麦の播種は全体的に遅れ、10月11日現在の同国の作付進捗率は 1～4%と昨年同時期の 15%を大きく下回っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2019/20 年度の輸出量は、主要輸出国であるフランスでの生産量の 1.0 百万トンの上方修正や、豪州等の輸出量の減少により、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 28.0 百万トンの見込み。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	134.3	131.4	132.0 (132.0)	-	0.4
消費量	121.0	125.0	128.0 (128.7)	-	2.4
うち飼料用	17.5	20.0	21.0 (20.8)	-	5.0
輸 出 量	1.0	1.0	1.3 (1.2)	-	28.7
輸 入 量	3.9	3.2	3.2 (3.6)	-	1.6
期末在庫量	131.2	139.8	145.7 (127.1)	-	4.2
期末在庫率	107.5%	110.9%	112.7% (97.9%)	-	1.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	24.51	24.27	24.10 (24.00)	-	▲ 0.7
単収(t/ha)	5.48	5.42	5.48 (5.50)	-	1.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 October 2019)
IGC 「Grain Market Report」(26 September 2019)

小麦－EU

(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、() は EU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	151.1	136.9	152.0 (152.8)	1.0	11.1
消費量	130.4	123.2	127.5 (127.6)	-	3.5
うち飼料用	58.0	52.0	56.0 (53.4)	-	7.7
輸 出 量	23.4	23.3	28.0 (26.4)	0.5	20.1
輸 入 量	5.8	5.8	5.5 (5.4)	-	▲ 4.5
期末在庫量	13.9	10.0	12.0 (18.7)	0.4	20.0
期末在庫率	9.0%	6.8%	7.7% (12.1%)	0.2	0.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	26.16	25.58	26.06 (26.25)	▲ 0.04	1.9
単収(t/ha)	5.78	5.35	5.83 (5.8)	0.04	9.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「PS&D」(10 October 2019)
EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」(26 September 2019)

< ロシア >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産予測は、前月からの変更はなく、冬小麦が54.0百万トン、春小麦が18.5百万トンの72.5百万トンの見込み。

なお、ロシア農業省によれば、10月16日現在、小麦(冬及び春小麦)の収穫進捗率は97.7%に達し、同日までの収穫量は77.3百万トン(前年同日は72.6百万トン)となった。なお、同省は、9月25日時点で、同年度の生産量を78.0百万トンと見込んでいた。

また、穀物品質評価センターによれば、10月14日までに収穫された32.1百万トンの品質調査結果は、2等は0.03%(前年同日は0.05%)、3等は32.8%(同23.0%)、4等は46.9%(同46.6%)。5等は19.9%(27.4%)と、全体的に前年同日より良好であった。

発芽する冬小麦(クラスノダール地方)10月



ロシア気象センターによれば、2020/21年度の冬小麦は、ロシア・ヨーロッパ部の北西、中央、南、北カフカス各連邦管区等では、発芽から分けつ期初期を迎え、概ね良好な作柄である。

また、ロシア・アジア部のウラル、シベリア各連邦管区で、平年より5~12日早く発芽・第3葉形成期を迎え、作柄は良好~並であるが、9月末の急激な気温低下で生長が停止した。

【貿易情報・その他】ロシア税関統計によれば、9月の輸出先上位5ヶ国はトルコ91.6万トン(輸出シェア33%)、エジプト87.4万トン(同21.4%)、ベトナム27.7万トン(同6.8%)。

このうち、ベトナム向けは、10月中旬、異種子混入の検疫問題が生じ輸出が停止された。ベトナムは、2017/18年度にロシアから約210万トンを輸入し、ロシアの小麦輸出先で第4位となったが、2018/19年度は、異物混入の問題で輸入量は約120万トンに留まった。

今年度は、小麦の国際相場が低く、ロシア国内の相場が高いことから、一度ベトナムへの輸出が止まると、ロシアはベトナム市場を失う可能性がある。

小麦—ロシア

(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	85.2	71.7	72.5 (73.7)	-	1.1
消費量	43.0	40.5	39.5 (40.8)	-	▲2.5
うち飼料用	20.0	18.0	17.0 (17.6)	-	▲5.6
輸出量	41.4	35.4	34.0 (33.7)	-	▲4.0
輸入量	0.5	0.4	0.5 (0.3)	-	11.6
期末在庫量	12.0	8.3	7.7 (9.6)	0.4	▲6.4
期末在庫率	14.2%	10.9%	10.5% (12.9%)	0.6	▲0.4

(参考)
 収穫面積(百万ha) 27.37 26.34 27.00 (27.30) - 2.5
 単収(t/ha) 3.11 2.72 2.69 (2.70) - ▲1.1
 資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(10 October 2019)
 IGC 「Grain Market Report」(26 September 2019)

18/19年度及び19/20年度の小麦輸出先国及び輸出品

(万トン)

	2018/19年度		2019/20年度		
	輸出先国	輸出品	輸出先国	輸出品	
1	エジプト	739.3	1	トルコ	296.9
2	トルコ	523.5	2	エジプト	166.6
3	バングラデシュ	189.6	3	バングラデシュ	60.0
4	ナイジェリア	131.9	4	アゼルバイジャン	55.0
5	スーダン	124.1	5	ベトナム	50.6
6	イエメン	123.7	6	ナイジェリア	49.0
7	ベトナム	122.5	7	スーダン	46.1
8	インドネシア	104.6	8	南アフリカ	40.1
9	その他	1457.7	9		429.4
	計	3516.9	計		1193.7

※2018/19年度:2018年7月から2019年6月

2019/20年度:2019年7月から2019年9月

資料:ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成

<豪州>

【生育・生産状況】USDAによれば、ウェスタンオーストラリア州(WA州)、サウスオーストラリア州(SA州)では5月に適時な降雨で播種作業が促進された一方、ニューサウスウェールズ州(NSW州)北部、クイーンズランド州(QLD州)南東部では平年を下回る降水量の中、播種が行われた。

その後、WA州やSA州では乾燥傾向となり単収見通しが徐々に悪化したが、WA州南部では9月下旬に、SA州では9月中旬に降雨があり生育が促された。作況は安定的であるものの、単収見通しの維持には追加の降雨が必要とされている。一方、NAW州北部、QLD州南東部等では引き続き干ばつ状態であり作柄は不良である。

豪州では11月に収穫の最盛期を迎えるが、予報では、11月末まで全体的に乾燥天候が続くことから、単収に影響を与えると見られる。

2019/20年度の生産量は、乾燥天候のため、前月予測より単収が5年平均を下回る1.68トン/ヘクタールに低下するため、1.0百万トン下方修正され18.0百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】2019/20年度の飼料用需要は、小麦生産量が減少したものの、乾燥

収穫が進む豪州の小麦圃場(ビクトリア州)



により生産量が減少した東部の牧草の代替として小麦が用いられるため、前月予測からの変更はない見込み。

一方、輸出量は、生産量予測の下方修正により、前月予測より1.0百万トン下方修正され9.5百万トンの見込み。

なお、干ばつ状況悪化の影響で豪州の輸出価格は再び上昇している(P3グラフ参照)。

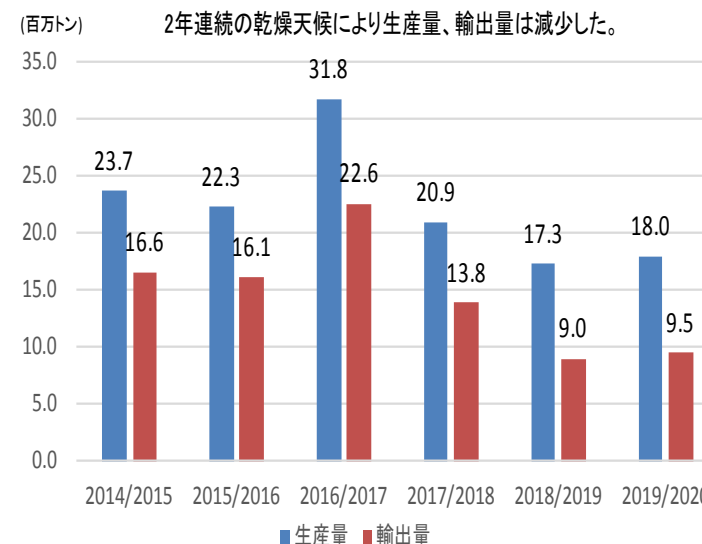
小麦一豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	20.9	17.3	18.0 (19.1)	▲ 1.0	4.0	
消費量	7.5	9.2	8.5 (8.7)	-	▲ 7.6	
うち飼料用	4.0	5.7	5.0 (5.2)	-	▲ 12.3	
輸 出 量	13.9	9.0	9.5 (10.8)	▲ 1.0	5.6	
輸 入 量	0.2	0.4	0.2 (0.4)	-	▲ 58.3	
期末在庫量	5.5	5.0	5.1 (5.0)	-	3.0	
期末在庫率	25.8%	27.3%	28.4% (25.3%)	1.5	1.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)※	10.92	10.16	10.70 (10.77)	-	5.3	
単収(t/ha)	1.92	1.70	1.68 (1.77)	▲ 0.10	▲ 1.2	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 October 2019)
IGC 「Grain Market Report」(26 September 2019)

豪州産小麦の生産量・輸出量の推移



2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・ロシアで上方修正も、エジプト、米国等で下方修正により、前月から下方修正された。

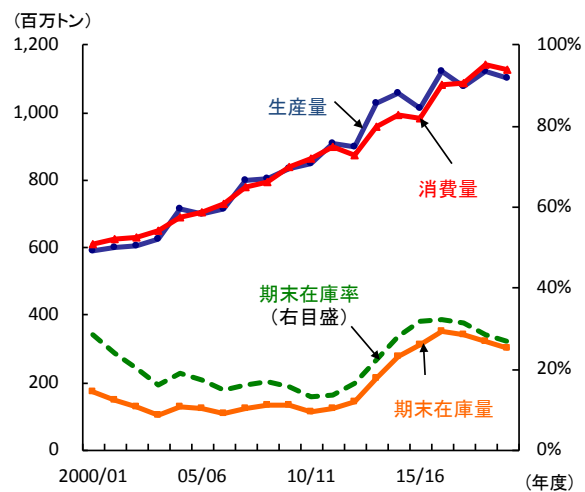
消費量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・米国等で上方修正も、ブラジル、ウクライナ等で下方修正により、前月から下方修正された。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・ロシアで上方修正も、米国で下方修正により、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2019.10.10)をもとに農林水産省にて作成

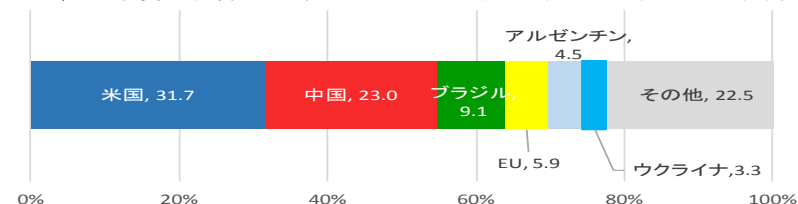
◎世界のとうもろこし需給

(単位:百万トン)

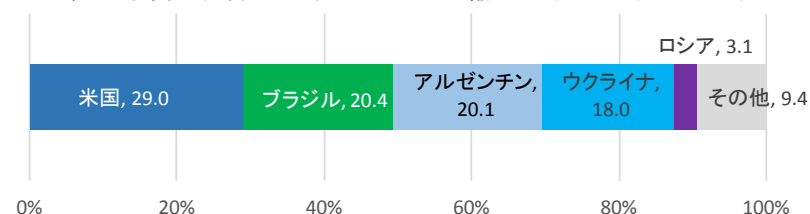
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,078.1	1,123.2	1,104.0	▲ 0.9	▲ 1.7
消費量	1,088.1	1,140.5	1,125.5	▲ 2.7	▲ 1.3
うち飼料用	672.0	704.6	693.9	▲ 0.4	▲ 1.5
輸 出 量	147.8	177.9	166.6	▲ 3.3	▲ 6.3
輸 入 量	150.0	163.9	166.1	▲ 3.3	▲ 1.3
期末在庫量	341.3	324.0	302.6	▲ 3.7	▲ 6.6
期末在庫率	31.4%	28.4%	26.9%	▲ 0.3	▲ 1.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 October 2019)

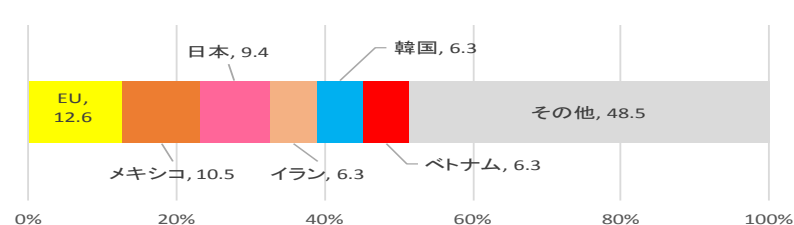
○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの生産量(1104.0百万トン)(単位:%)



○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの輸出量(166.6百万トン)



○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの輸入量(166.1百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】3月から6月までの降雨過多の影響により、作付け、生育に遅れが生じた。収穫は平年より遅れて10月からようやく最盛期を迎えた。なお、米国農務省(USDA)「Crop Progress」(2019.10.15)によれば、10月13日時点の収穫進捗率は22%と、過去5年平均(36%)より遅れている。

生産量は、単収は上方修正されたが、収穫面積が下方修正されたことにより、前月予測から0.5百万トン下方修正され、前年度比4.4%減の350.0百万トンの見通し。

【需要動向】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、エタノール用で下方修正も、飼料用で上方修正され、前年度比2.4%減の307.7百万トン。期首在庫が下方修正されたことから、期末在庫量が6.6百万トン下方修正され、49.0百万トンの見通し。

なお、10月4日付けで、米国政府は、バイオ燃料消費量を増加させるため、2020年からガソリンへの混合が義務づけられているエタノール含有量を引き上げる等のバイオエタノール政策を公表した。なお、現時点では、まだ具体的なエタノール含有量は示されていない。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、南米等の輸出余力が増加していることから、前月から下方修正され、前年度比8.0%減の48.3百万トンの見込み。なお、輸出検証高(2019年1月3日～10月3日)は、31.0百万トン(右表参照)。

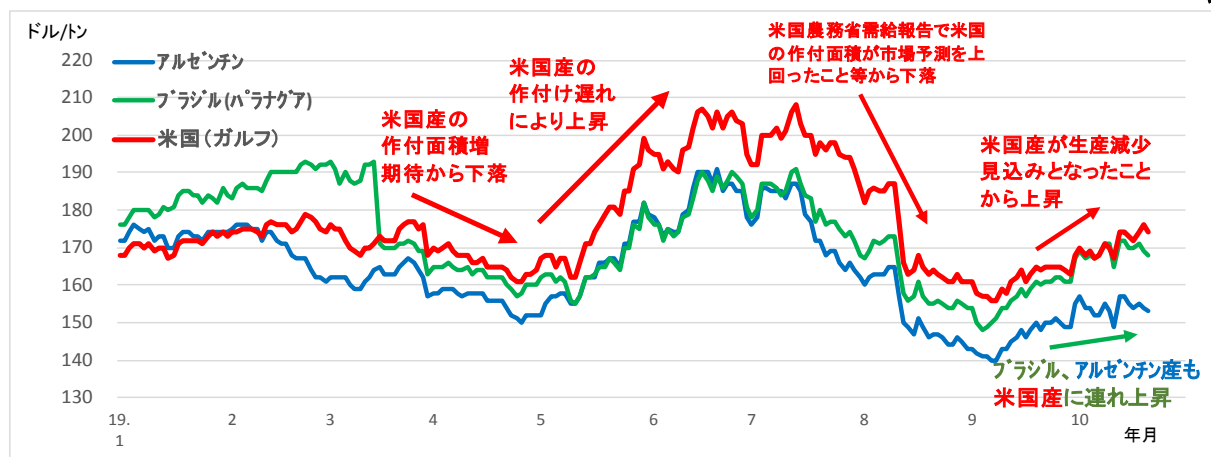
とうもろこし—米国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	371.1	366.3	350.0	▲ 0.5	▲ 4.4
消費量	314.0	315.2	307.7	1.5	▲ 2.4
うち飼料用	134.7	142.7	134.6	3.2	▲ 5.7
エタノール用等	142.4	136.6	137.2	▲ 1.3	0.4
輸 出 量	61.9	52.5	48.3	▲ 3.8	▲ 8.0
輸 入 量	0.9	0.7	1.3	-	78.9
期末在庫量	54.4	53.7	49.0	▲ 6.6	▲ 8.8
期末在庫率	14.5%	14.6%	13.8%	▲ 1.8	▲ 0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.48	33.08	33.11	▲ 0.08	0.1
単収(t/ha)	11.08	11.07	10.57	0.01	▲ 4.5

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 October 2019)

図: 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格 (FOB) の推移



資料: IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

表: 米国のとうもろこし輸出先国別輸出量 (輸出検証高) (万トン)

	国名	輸出検証高		
		2019年累計	8月	9月
1	メキシコ	979.8	135.0	80.4
2	日本	926.2	54.9	31.0
3	コロンビア	291.1	7.7	6.0
	その他	906.7	86.0	37.3
	計	3,103.8	283.6	154.7

注1: 9月の輸出検証高は、9月12, 19, 26日及び10月3日の計

注2: 累積輸出検証高は、2019年1月3日～10月3日の合計

出典: USDA Federal Grain Inspection Service

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、例年10月以降作付けされる2019/20年度の生産量は、前月予測から変更はなく、前年度と同じ101.0百万トンの見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(Conab)月例報告(2019.10.10)によれば、現在作付けされている2019/20年度の夏とうもろこしは、作付面積の増加により、生産量は前年度より2.5%増の26.3百万トンの見込み。大豆収穫後に作付けする冬とうもろこし(北部地域の5~6月作付け分含む)の生産量は74.3百万トンが見込まれ、合計で98.4百万トンでと前年度(100.0百万トン)より1.7%減少する見込み。

作付進捗率は、降雨が少ないパラナ州で80%(10月15日時点)。一方、10月上旬に豪雨のあったリオグランデ・ド・スル州で66%(10月17日時点)と過去5年平均より進展(過去5年平均61%)。(P.17大豆-ブラジルのクロープカレンダー参照)。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、飼料用需要の下方修正により、前月予測から1.0百万トン下方修正され67.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は34.0百万トンが見込まれ、世界第2位の輸出国の座をアルゼンチン、ウクライナと争っている。また、2018/19年度の輸出量は上方修正され39.0百万トン。(図参照)。

USDAの「Grain: Markets and Trade」(2019.10.10)によれば、最近のブラジルのとうもろこしの輸出増の要因として、生産増や、リアル安に加え、ブラジル北部のアマゾン川沿いの輸出ターミナルが拡張され、主産地の中西部からの輸出経費が軽減されていることが挙げられている。

ブラジル貿易統計によると、9月の輸出量は6.5百万トンで、2019年1~9月までの輸出量累計は、28.9百万トンとなり、前年同期の2.3倍となっている。28.9百万トンの内訳は、1位がイランで4.5百万トン、2位が日本で3.6百万トン、3位がベトナムで2.6百万トンとなっている。

とうもろこし-ブラジル

(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割)

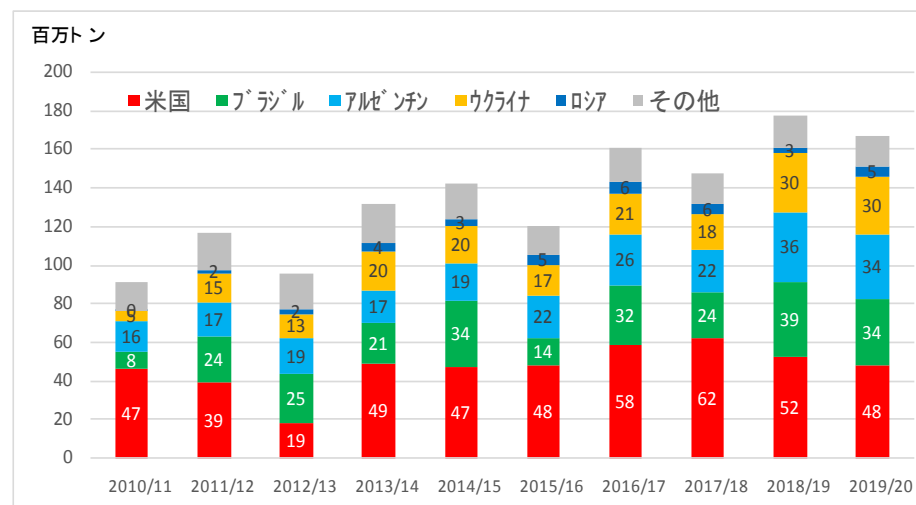
(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	82.0	101.0	101.0 (101.0)	-	-	
消費量	63.5	65.0	67.0 (67.7)	▲ 1.0	3.1	
うち飼料用	54.0	55.0	56.0 (53.5)	▲ 1.0	1.8	
輸 出 量	24.2	39.0	34.0 (34.3)	-	▲ 12.8	
輸 入 量	0.9	1.0	1.0 (0.6)	-	-	
期末在庫量	9.3	7.3	8.3 (5.0)	2.8	13.7	
期末在庫率	10.6%	7.0%	8.2% (4.9%)	0.0	1.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	16.60	17.50	18.10 (17.80)	-	3.4	
単収(t/ha)	4.94	5.77	5.58 (5.67)	-	▲ 3.3	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 October 2019)
IGC 「Grain Market Report」(26 September 2019)

図: 世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移

米国のシェアが低下、ブラジル、アルゼンチン、ウクライナが2位争い



資料: USDA 「PS&D」(2019.10)のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】ブエノスアイレス穀物取引所の週報(2019.10.17)によれば、2019/20年度の作付けが開始され、作付面積は前年度(6.3百万ヘクタール)より増加し、6.4百万ヘクタールの見通し。作付進捗率は28.7%で、前年同期より3.9ポイント遅れている。特にアルゼンチン内陸部では土壌水分の不足のため、降雨が必要となっている。

なお、USDAによれば、9月以降作付けが開始された2019/20年度の生産量は、前月予測から変更はなく50.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度比6.9%減の33.5百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2019年8月の輸出量は3.4百万トンで、1～8月の累計では24.9百万トンとなり前年同期の1.5倍となっている。24.9百万トンの内訳は、1位がベトナムで5.2百万トン、2位がアルジェリアで2.6百万トン、3位がエジプトで2.5百万トンである。

< 中国 >

【生育・生産状況】とうもろこしは、10月時点で順調に収穫期を迎えている。収穫状況は天候に恵まれ概ね良好である。

USDAによれば、2019/20年度の見込み生産量は、前月予測から変更はなく、作付面積の減少により、前年度より1.3%減の254.0百万トンの見込み。政府による在庫解消政策として、大豆への作付け転換が奨励されている。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測から変更はなく277.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】米中通商摩擦の影響から、中国財政部によれば、2018年7月から米国産とうもろこし輸入に賦課していた25%の関税に加え、2019年12月15日以降、追加関税(10%)を賦課する見通し。

中国の貿易統計によれば、2019年9月の輸入量は14万トンで、うち6万トンが米国産で、今年に入り初めて米国が1位となった。なお、1～9月の累計輸入量は3.9百万トンで、内訳は、ウクライナ産が3.5百万トン(91%)、米国産が0.2百万トン(5%)である。

とうもろこし—アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.0	51.0	50.0 (56.1)	-	▲ 2.0
消費量	12.4	13.8	15.0 (23.0)	-	8.7
うち飼料用	8.5	9.7	10.3 (18.0)	-	6.2
輸 出 量	22.0	36.0	33.5 (33.7)	-	▲ 6.9
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.9	4.1	5.6 (6.3)	-	36.7
期末在庫率	8.4%	8.2%	11.5% (11.1%)	-	3.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	5.20	6.10	6.10 (7.50)	-	-
単収(t/ha)	6.15	8.36	8.20 (7.47)	-	▲ 1.9

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 October 2019)
IGC「Grain Market Report」(26 September 2019)

とうもろこし—中国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	259.1	257.3	254.0 (253.6)	-	▲ 1.3
消費量	263.0	273.0	277.0 (281.6)	-	1.5
うち飼料用	187.0	190.0	188.0 (175.0)	-	▲ 1.1
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	3.5	5.0	7.0 (5.0)	-	40.0
期末在庫量	222.5	211.8	195.8 (181.5)	-	▲ 7.6
期末在庫率	84.6%	77.6%	70.7% (64.5%)	-	▲ 6.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	42.40	42.13	41.00 (41.48)	-	▲ 2.7
単収(t/ha)	6.11	6.11	6.20 (6.11)	-	1.5

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 October 2019)
IGC「Grain Market Report」(26 September 2019)

3 米

(1) 国際的な米需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・インド、エジプト等で上方修正され、前月から上方修正された。

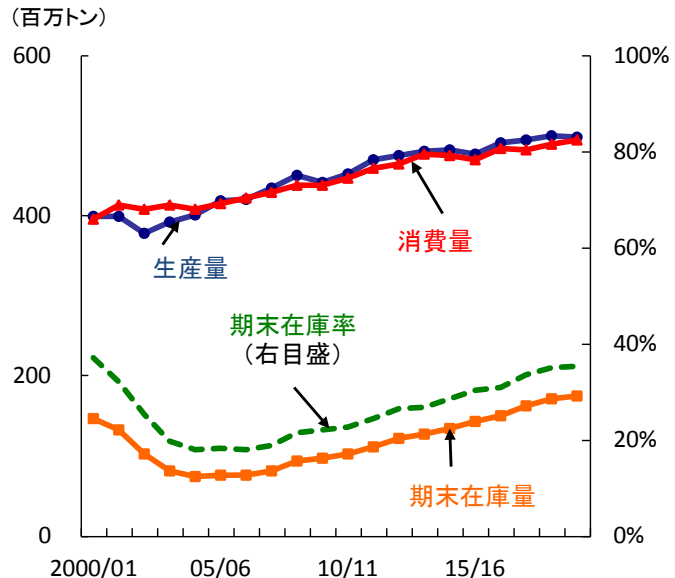
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・エジプト等で上方修正され、前月から上方修正された。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インド等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料 : USDA 「PS&D」 (2019. 10. 10) をもとに農林水産省にて作成

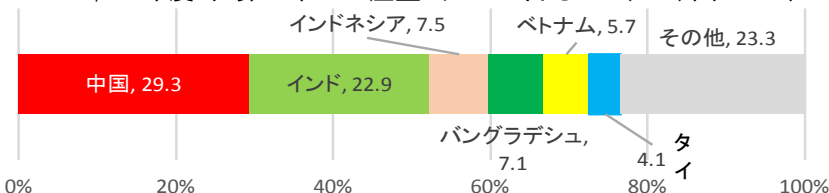
◎世界の米需給

(単位:百万精米トン)

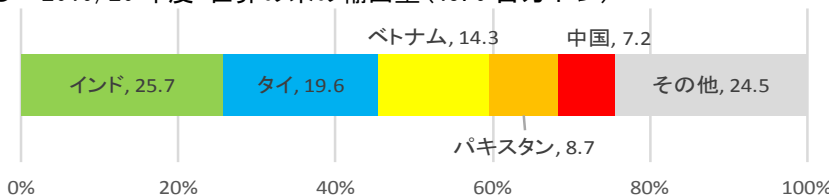
年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	494.9	499.0	497.8	3.5	▲ 0.2
消費量	482.2	489.4	494.5	1.3	1.0
輸出量	47.1	45.3	45.9	0.8	1.3
輸入量	46.7	44.5	43.9	-	▲ 1.5
期末在庫量	162.3	171.9	175.1	2.4	1.9
期末在庫率	33.7%	35.1%	35.4%	0.4	0.3

資料 : USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (10 October 2019)

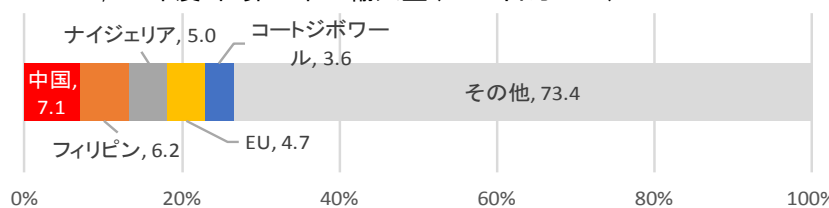
○ 2019/20 年度 世界の米の生産量 (497.8 百万トン) (単位 : %)



○ 2019/20 年度 世界の米の輸出量 (45.9 百万トン)



○ 2019/20 年度 世界の米の輸入量 (43.9 百万トン)



(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

【生産動向】4月から6月に断続的に続いた降雨により南部の長粒種産地で作付け、生育に遅れが生じた。しかし、その後の良好な天候により順調に収穫が進み、米国農務省 (USDA) の「Crop Progress」(2019.10.15)によれば、10月13日時点の収穫率は生産州全体で87%となっており、過去5か年平均に比べ、1ポイント遅れている。なお、中・短粒種の生産州であるカリフォルニア州の作柄は良好で、収穫率は65%と、過去5か年平均に比べ3ポイント進んでいる。

USDAによれば、生産量は、アーカンソー州、カリフォルニア州など主産州で単収が上方修正されたことから、前月予測からわずかに上方修正され、対前年度比15.9%減の6.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は、対前年度1.7%増の3.0百万トンの見込み。輸入量は、対前年度2.2%増の0.9百万トンの見込み。

< インド >

【生育・生産動向】現地コンサルタントによると、インド西部のカリフ米は生殖生長期後半であり、一部地域では収穫が始まった。東部から南部及び南東部では生殖生長期前半である。モンスーン期の降雨の遅れにより全生産の9割を占めるカリフ米の作付け進捗が多少遅れていたが、7月から9月にかけてインド全域で降雨が継続したことから、順調に生育している。なお、ラビ米の作付けは10月中旬から開始される。

USDAによれば、モンスーンの十分な降雨による単収の上方修正により生産量は前月から2.0百万トン上方修正され、対前年度比2.1%減の114.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、生産量の上方修正から上方修正され、11.8百万トンと前年度並みで、6年連続で世界第1位の輸出国となる見込み。

インド食料公社によれば、前年度が豊作となったことから、10月時点の政府備蓄量は24.9百万トンと10月1日時点の備蓄必要量(10.3百万トン)を大きく上回っている。

米—米国

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米の米生産に占める生産シェアは約2割

(単位:百万精米トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.7	7.1	6.0	0.0	▲ 15.9
消費量	4.3	4.6	4.2	-	▲ 9.2
輸出量	2.8	3.0	3.0	-	1.7
輸入量	0.9	0.9	0.9	-	2.2
期末在庫量	0.9	1.4	1.2	0.0	▲ 16.9
期末在庫率	13.2%	18.8%	16.4%	0.6	▲ 2.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	0.96	1.18	1.00	-	▲ 15.3
単収(もみt/ha)	8.41	8.62	8.54	0.06	▲ 0.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 October 2019)

米—インド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	112.8	116.4	114.0 (115.5)	2.0	▲ 2.1
消費量	98.7	101.0	102.1 (102.2)	0.1	1.1
輸出量	12.0	11.8	11.8 (11.7)	0.6	-
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	22.6	26.2	26.3 (29.0)	1.3	0.4
期末在庫率	20.4%	23.2%	23.1% (25.5%)	1.0	▲ 0.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	42.90	44.50	43.00 (43.25)	-	▲ 3.4
単収(もみt/ha)	3.94	3.92	3.98 (2.67)	0.07	1.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 October 2019)

IGC 「Grain Market Report (26 September 2019)」 (単収は精米t/ha)

<ベトナム>

【生育・生産動向】現地情報によれば、2018/19年度の夏作は登熟期を迎え、作付面積は前年度比96.5%の1.6百万ヘクタール。夏秋作は対前年比98.1%の2.1百万ヘクタールの作付面積となっており、メコンデルタでは米からエビ養殖等への転用政策が進んでいる。秋冬作は、前年比104.0%の0.6百万ヘクタールの作付面積となっており、出穂・開花期を迎えている。

なお、USDAによれば、2020年に収穫される2019/20年度の生産量は、対前年度比1.4%増の28.3百万トンの見込みで前月予測から変わらず。

【貿易情報・その他】2019年9月のインディカ精米（砕米5%）の輸出価格は、327ドル/トンで、前年同月（410ドル/トン）と比べ低水準。なお、同年1～9月の輸出量は、5.1百万トンと対前年同期比（4.9百万トン）で3.7%増となっている。前年度と比較して、フィリピン、コートジボワール、香港向けの輸出が大きく伸びている（約3倍）ものの、かつての主要輸出先であった中国、インドネシア向けが輸入需要の減退から8割減となっている。

<タイ>

【生育・生産動向】現地情報によれば、本年6月から7月に干ばつ被害が深刻であった北東部や北部では、8月以降まとまった降雨があった。北東部、中部では登熟期から収穫期を迎えている。なお、北東部では、9月上旬のサイクロンによる洪水の被害の影響が懸念。

なお、USDAによれば、2020年に収穫される2019/20年度の前年度比0.8%増の20.5百万トンの見込みで前月予測から変わらず。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、対前年度比3.4%増の9.0百万トンの見込み。

2019年1～8月の輸出量は、ベトナム、インド、中国との競争激化、バーツ高等により、前年同期比26.3%減の5.4百万トンとなった。主な輸出先は、ベナン（95.4万トン）、南アフリカ（45.7万トン）、米国（37.4万トン）である。

10月24日時点のタイ産米（100%2等）の輸出価格は440ドル/トン。新穀の供給により価格が下落したものの、依然としてベトナム産より2割程度割高であることから新たな引き合いがなく、需要が低迷している。

米-ベトナム

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.7	27.9	28.3 (29.3)	-	1.4
消費量	21.5	21.5	22.0 (22.9)	▲ 0.1	2.1
輸出量	6.6	6.5	6.6 (6.6)	0.0	0.8
輸入量	0.5	0.4	0.4 (0.4)	-	-
期末在庫量	1.0	1.4	1.6 (3.6)	-	14.7
期末在庫率	3.7%	4.9%	5.5% (12.4%)	-	0.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.65	7.67	7.67 (7.65)	-	-
単収(もみt/ha)	5.79	5.83	5.91 (3.82)	-	1.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 October 2019)

IGC 「Grain Market Report (26 September 2019)」 (単収は精米t/ha)

米-タイ

夏の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.6	20.3	20.5 (19.7)	-	0.8
消費量	11.0	11.2	11.2 (10.9)	-	-
輸出量	11.1	8.7	9.0 (9.5)	-	3.4
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.3)	-	-
期末在庫量	3.0	3.7	4.3 (3.5)	-	14.9
期末在庫率	13.6%	18.6%	21.0% (16.9%)	-	2.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.76	10.83	10.90 (10.60)	-	0.6
単収(もみt/ha)	2.90	2.85	2.85 (1.86)	-	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 October 2019)

IGC 「Grain Market Report (26 September 2019)」 (単収は精米t/ha)

< 中国 >

【生育・生産動向】中国中央气象台によれば、10月上旬現在、2019/20年度の二期作早稲は、収穫済みとなっている。二期作晩稲は、出穂期から乳熟期に入っている。一期作稲は、ジャポニカ米主産地の東北地方では乳熟期から収穫期で、江蘇、浙江、雲南省等では収穫終盤、湖南、四川盆地では収穫済みとなっている。9月の天候や土壌水分状況は良好で、生育状況は概ね良好である。

USDAによれば、2019/20年度の生産量は、大豆への作付転換政策の影響で収穫面積及び単収ともに減少することから、対前年度比1.7%減の146.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、対前年度19.1%増の3.3百万トンの見込み。これは、政府備蓄在庫の古米が含まれることから特に中粒種の輸出価格が米国や豪州に比べ約半額となっていること、豪州等の生産減を背景に、価格を重視するアフリカや中東の輸入国にとって魅力的な選択肢となっているためである。この結果、米国の従来の輸出市場であったトルコやヨルダン、リビアに加え、米領プエルトリコなどへも進出している。

一方、輸入量は国内在庫の積み上がりから輸入需要が減退したため、対前年度比4.6%減の3.1百万トンの見通し。

中国農業農村部の「農産品供需形勢分析月報」（8月分）によれば、早期インディカ、晩期インディカ、一期作ジャポニカ米の卸売価格(精米)は、それぞれ3,740元/トン、3,920元/トン、4,200元/トン。夏季休暇が終了し、学生食堂向けのインディカ米の買付が回復したため、インディカ米の需要が増加し、価格がわずかに上昇した。一方、ジャポニカ米の価格がインディカ米と比較して高かったため、ジャポニカ米の価格が下落した。

米－中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	148.9	148.5	146.0 (147.4)	-	▲ 1.7
消費量	142.5	143.0	143.0 (143.5)	-	0.0
輸出量	1.4	2.8	3.3 (3.6)	-	19.1
輸入量	5.5	3.3	3.1 (3.3)	-	▲ 4.6
期末在庫量	109.0	115.0	117.8 (114.9)	-	2.4
期末在庫率	75.8%	78.9%	80.5% (78.1%)	-	1.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	30.75	30.19	30.00 (30.05)	-	▲ 0.6
単収(もみt/ha)	6.92	7.03	6.95 (4.91)	-	▲ 1.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 October 2019)、
IGC 「Grain Market Report (26 September 2019)」 (単収は精米t/ha)

〈参考 ロシアの米生産〉

USDAによれば、ロシアは小麦(世界第4位、世界シェア9.5%)、大麦(同第2位、同12.8%)、とうもろこし(同第11位、同1.2%)等の主要生産地であるが、米の生産も行われており、2019/20年度の生産量は粳ベースで1.1百万トン(同第36位、0.1%)、精米ベースで0.7百万トンと、ロシアの穀物生産量約1.1億トン(注)の約1%を占めている。

生産地は主に南連邦管区の黒海及びアゾフ海沿岸のクラスノダール地方であり、生産量はロシア全体の80%~90%を占める。その他は極東の沿海地方である。同地方は雨が多く夏に高温となる米の適作地である。

同地の米の生産は、沼地であったことから1930年代から開始され、旧ソ連時代の1960年代~1970年代には灌漑が開始された。現在は、クバン川の水を利用し灌漑を行っており、機械化も進んでいる。品種は、ジャポニカ米が80%、インディカ米が20%といわれている。

当該地方のある生産事業者は、80人程度の集団で、2,500ヘクタールで米を栽培し、生産量は18,750トン(粳ベース)、単収は7.5トン/ヘクタールとなっている。栽培パターンは、米栽培のみでは単収が低下するため、大豆を輪作で栽培している。

USDAによれば、米の需要は、2019/20年度の消費量が0.8百万トンと10年前に比べ1.1倍となり、増加傾向にある。

一般的にロシアの伝統的食生活ではライ麦を利用した黒パンが主であったことから、米はもともとロシアの食生活に根付いたものではなかったが、クラスノダール地方では、古くからの食材と認識されている。

米の用途は主に国内向けで、ジャポニカ米は寿司米、サラダ、スープ等の付合わせ、インディカ米はピラフやミルク粥に用いられる。ミルク粥は、「カーシャ」とよばれ、穀粒等を煮たおかゆで、そのうち米の「カーシャ」はバターを入れ牛乳で煮立てて砂糖を入れる場合が多いので、甘くデザートのような食感である。

写真：上から「クラスノダール地方の米の圃場」(10月)、「米の粥とピラフ」、「ロシア米を使用した寿司」

注：穀物は、大麦、とうもろこし、ライ麦、小麦、米、ミレー、オーツ麦である。



II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・米国等で下方修正され、前月から下方修正された。

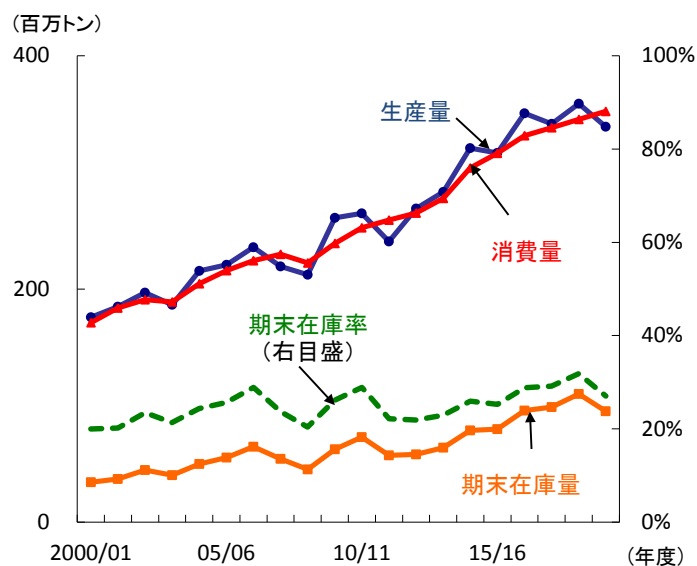
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・アルゼンチン等で下方修正され、前月から下方修正された。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 -

・前月からの変更はなし。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2019.10.10）をもとに農林水産省で作成。

◎世界の大豆需給

(単位:百万トン)

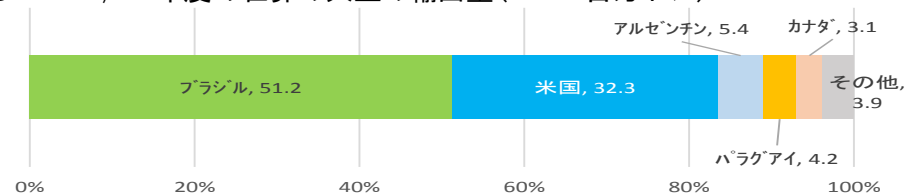
年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	341.6	358.8	339.0	▲ 2.4	▲ 5.5
消費量	338.4	345.4	352.3	▲ 1.1	2.0
うち搾油用	294.9	299.5	305.2	▲ 1.0	1.9
輸出量	153.1	148.7	149.4	-	0.5
輸入量	153.0	146.4	148.1	▲ 0.1	1.2
期末在庫量	98.8	109.9	95.2	▲ 4.0	▲ 13.3
期末在庫率	29.2%	31.8%	27.0%	▲ 1.0	▲ 4.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 October 2019)

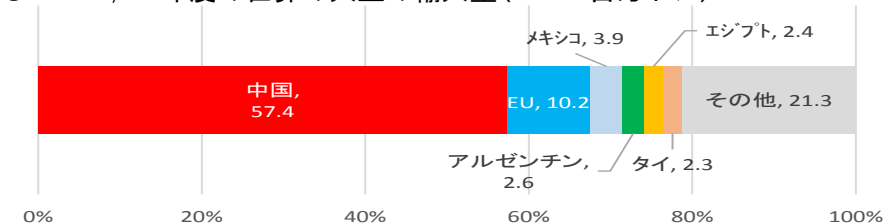
○ 2019/20 年度の世界の大豆の生産量 (339.0 百万トン) (単位：%)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸出量 (149.4 百万トン)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸入量 (148.1 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省 (USDA) によれば、2019/20 年度の生産量は、収穫面積と単収が引き下げられ、前月予測から 2.3 百万トン下方修正され 96.6 百万トンの見込み。

「Crop Progress」(2019.10.15)によれば、中西部での降雨により作付けが遅れたため、10月13日時点の主要18州における落葉率は85%と、前年度94%及び過去5年平均93%を下回っている。収穫進捗率についても、今年度は26%と前年度37%及び過去5年平均49%を下回っている。作柄評価は、良からやや良が54%と、前年度の66%より低下している。なお、収穫遅れによる霜害の懸念も生じている。

【貿易情報・その他】2019/20年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく48.3百万トンの見込み。

期末在庫量は、生産量の下方修正から前月予測から4.9百万トン下方修正され、12.5百万トンの見込み。輸出検証高(2019年1月3日～10月3日)は、33.3百万トンである。(下表参照)

米国の大豆輸出先国別輸出量 (輸出検証高) (万トン)

	国名	輸出検証高		
		2019年累計	8月	9月
1	中国	1393.5	282.1	289.1
2	メキシコ	359.5	45.5	45.5
3	インドネシア	187.6	30.1	30.1
	その他	1386.1	168.9	169.1
	計	3,326.8	526.6	533.8

注1: 9月の輸出検証高は、9月12, 19, 26日及び10月3日の計

注2: 累積輸出検証高は、2019年1月3日～10月3日の合計

出典: USDA Federal Grain Inspection Service

大豆—米国

(単位:百万トン)

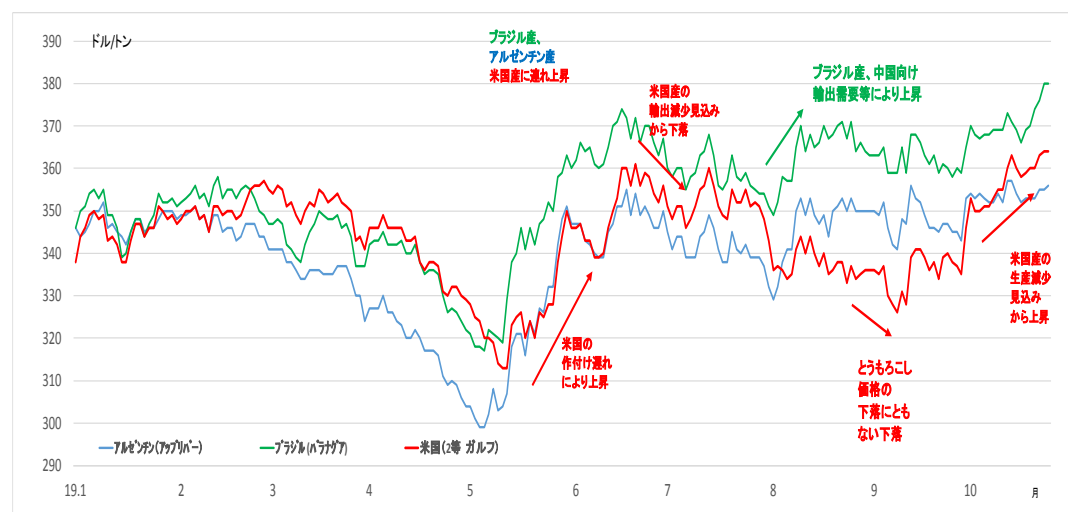
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	120.1	120.5	96.6	▲ 2.3	▲ 19.8
消費量	58.9	60.4	61.2	0.1	1.3
うち搾油用	55.9	56.9	57.7	0.1	1.3
輸出量	58.1	47.6	48.3	-	1.6
輸入量	0.6	0.4	0.5	-	42.1
期末在庫量	11.9	24.9	12.5	▲ 4.9	▲ 49.6
期末在庫率	10.2%	23.0%	11.4%	▲ 4.5	▲ 11.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	36.24	35.45	30.61	▲ 0.09	▲ 13.7
単収(t/ha)	3.31	3.40	3.15	▲ 0.07	▲ 7.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (10 October 2019)

図: 米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格 (FOB) の推移



資料: IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の123.0百万トンの見込み。ブラジル食料供給公社（CONAB）の週報(2019.10.11)によれば、作付け進捗率は11%である。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測から、わずかに上方修正され、46.5百万トンの見込み。CONABによれば、経済成長、輸出向け畜産需要の増加、ブラジル国内のバイオディーゼルの混合率義務が、今後11%から12%に引き上げられることを受け、国内需要は伸びる見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、76.5百万トンの見込み。世界の大豆輸出量の約半分を占め、世界第1位の輸出国となる見込み。

ブラジル貿易統計によると、2019年1月～9月の輸出量は、60.7百万トンで、中国向けが最も多く、66.7%を占めている。

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2019/20年度の大豆の作付けは、2019年9月以降、順次開始。

2020年2月頃に収穫が終了し、その後、冬とうもろこしを栽培予定。

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2018/19年度	2019年												2020年								
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
夏とうもろこし	リオグランデ・スル州等			作付 4.1(百万ha)						収穫 26.3						収穫夏冬計 98.4					
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 17.5												作付 13.4			収穫 72.1					
大豆	マトグロソ州、パラナ州等			作付 36.6						収穫 120.4						早熟種大豆収穫後冬とうもろこし播種					

資料: CONAB 穀物レポート(2019.10.10)

大豆—ブラジル

(単位:百万トン)

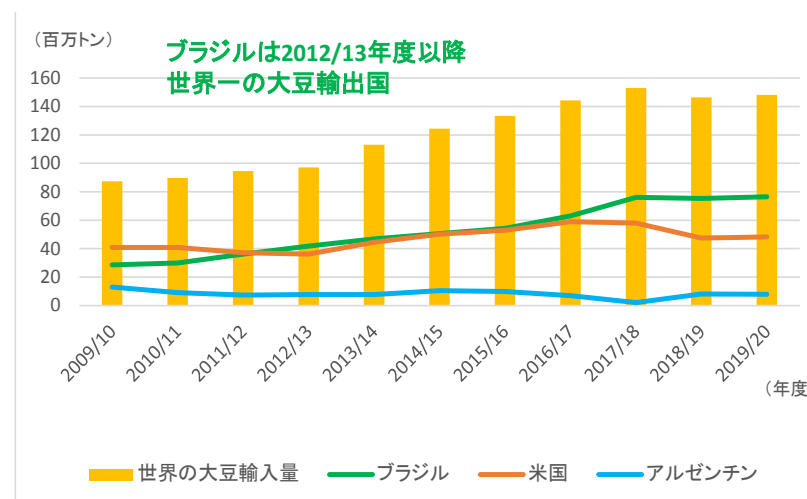
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	122.0	117.0	123.0 (124.0)	-	5.1	
消費量	46.5	45.7	46.5 (…)	0.04	1.9	
うち搾油用	44.2	43.0	43.8 (45.0)	-	1.7	
輸 出 量	76.1	75.4	76.5 (76.0)	-	1.5	
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (…)	-	33.3	
期末在庫量	32.7	28.8	29.0 (2.6)	0.6	0.6	
期末在庫率	26.7%	23.8%	23.6% (…)	0.5	▲ 0.3	

(参考)

収穫面積(百万ha)	35.15	35.90	36.90 (37.00)	-	2.8
単収(t/ha)	3.47	3.26	3.33 (3.35)	-	2.1

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 October 2019)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(11 October 2019)

図: 世界の大豆輸入量と主要大豆輸出国の輸出量の推移



資料: USDA「PS&D」(2019.10.10)をもとに農林水産省で作成。

大豆－カナダ

(単位:百万トン)

< カナダ >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、6.5百万トンの見込み。

カナダ農務農産食品省(AAFC)によれば、作付面積の減少、単収低下により、2019/20年度生産量は前年度から13%減少の6.5百万トンの見込み。なお、この予測には、主に平原三州における9月以降の寒冷湿潤型の天候の影響は反映されていない。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、4.6百万トンの見込み。

なお、AAFCによれば、今後の世界の大豆需給動向については、カナダの収穫進捗状況、カナダ産・米国産大豆の品質及び単収、輸入国の大豆購買意欲、カナダ・米国の輸出ペース等に注目する必要があるという。

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	7.7	7.3	6.5 (6.5)	-	▲ 10.6	
消費量	2.9	3.0	2.9 (2.4)	▲ 0.1	▲ 2.7	
うち搾油用	1.9	2.1	2.1 (1.9)	-	1.1	
輸 出 量	4.9	5.3	4.6 (4.7)	-	▲ 12.5	
輸 入 量	0.5	1.2	0.8 (0.4)	-	▲ 31.7	
期末在庫量	0.6	0.8	0.7 (0.5)	▲ 0.2	▲ 22.7	
期末在庫率	8.1%	10.2%	8.7% (6.3%)	▲ 2.5	▲ 1.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	2.94	2.54	2.30 (2.30)	0.10	▲ 9.4	
単収(t/ha)	2.63	2.84	2.83 (2.82)	0.01	▲ 0.4	

資料：USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(10 October 2019)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(18 October 2019)

(参考) カナダのなたね

AAFCによれば、2019/20年度生産量は、19.4百万トンと前年度(20.3百万トン)より0.9百万トン減少する見込み。10月4日時点での収穫進捗率は、マニトバ州69%、サスカチュワン州24%、アルバータ州16%と遅れている。今期の収穫は、水分過多の状態で行われており、10月上旬時点で、収穫量の確定はできないとしている。上記の数字には、大豆同様、9月以降の平原三州の降雪を含む、寒冷湿潤型の天候の影響は反映されていない。

2019/20年度の輸出量は、9.2百万トンと過去5年平均10.1百万トンより少なくなる見込み。これは、中国のなたね需要が、カナダとの貿易摩擦、中国国内のアフリカ豚コレラ発生による飼料需要減少などから減少することが主要因である。

(注) 北米の降水量については、「小麦」P.2の「図 北米の降水量」を参照のこと。

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、53.0百万トンの見込み。なお、2018/19年度の収穫は、2019年6月までに終了し、天候に恵まれ、単収は過去最高の3.33トン/ヘクタールとなった。2019/20年度の作付けは、本年10月以降、開始される見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は前月予測から変更はなく、8.0百万トンの見込み。

なお、アルゼンチンは、バイオディーゼル用大豆の搾油を行うため、大豆輸出货量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」(2019.10)によれば、大豆粕はイラン、大豆油は中国、インドの需要の高まりにより、輸出需要が高い。搾油用需要が増加する見込みである。

< 中国 >

【生産・生育状況】USDAによれば、2019/20年度の実生産量は、前月予測から変更はなく、17.1百万トンの見込み。中国では、大豆生産振興に力を入れており、直近5年間で生産量は増加している。

【需給動向】2019/20年度の消費量は、2018年に発生したアフリカ豚コレラの影響から中国国内の飼料用需要が低調なため、前月予測から変更はなく、102.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸入量は前月予測から変更はなく85.0百万トンの見込み。

中国の貿易統計によれば、2019年9月の輸入量は8.2百万トンと、前年同月と比べ0.2百万トン増加した。なお、1~9月の累計輸入量は、64.6百万トンであり、内訳は、ブラジル産45.2百万トン(70%)、米国産10.2百万トン(16%)である。

大豆—アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	37.8	55.3	53.0 (53.0)	-	▲ 4.2
消費量	43.6	48.2	51.2 (…)	▲ 1.0	6.2
うち搾油用	36.9	41.3	44.0 (…)	▲ 1.0	6.7
輸 出 量	2.1	8.2	8.0 (…)	-	▲ 1.8
輸 入 量	4.7	6.5	3.9 (…)	-	▲ 39.7
期末在庫量	23.7	29.2	27.0 (…)	0.8	▲ 7.7
期末在庫率	51.9%	51.9%	45.6% (…)	0.02	▲ 6.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.30	16.60	17.50 (17.30)	-	5.4
単収(t/ha)	2.32	3.33	3.03 (3.06)	-	▲ 9.0

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(10 October 2019)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(11 October 2019)

大豆—中国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	15.3	15.9	17.1 (15.3)	-	7.5
消費量	106.3	102.1	102.7 (…)	-	0.6
うち搾油用	90.0	85.0	85.0 (…)	-	-
輸 出 量	0.13	0.12	0.13 (…)	-	8.3
輸 入 量	94.1	83.0	85.0 (…)	-	2.4
期末在庫量	23.1	19.7	19.0 (…)	-	▲ 3.6
期末在庫率	21.7%	19.3%	18.5% (…)	-	▲ 0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.25	8.40	9.00 (7.90)	-	7.1
単収(t/ha)	1.84	1.89	1.90 (1.94)	-	0.5

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 October 2019)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(11 October 2019)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2019/20年度)

	小麦	とうもろこし	米	大豆
米国	19年6月～20年5月	19年9月～20年8月	19年8月～20年7月	19年9月～20年8月
カナダ	19年8月～20年7月			19年8月～20年7月
豪州	19年10月～20年9月		20年3月～21年2月	
EU	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月		
中国	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月
ロシア	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月		19年9月～20年8月
ブラジル		20年3月～21年2月	20年4月～21年3月	19年10月～20年9月
アルゼンチン	19年12月～20年11月	20年3月～21年2月		19年10月～20年9月
タイ			20年1月～12月	
インド	19年4月～20年3月		19年10月～20年9月	
ベトナム			20年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2019/20年度は、米国の小麦では2019年6月～2020年5月、ブラジルのとうもろこしでは2020年3月～2021年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads?tabName=default>

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が2019年10月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下の通りです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構
ASF	アフリカ豚コレラ

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-3502-8111 (内線 3805)
--